

みずほマーケット・トピック(2015 年 8 月 7 日)

週末版

内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	3. 本日のトピック: 8/3~7 日まで休暇のため、お休みとさせていただきます。	

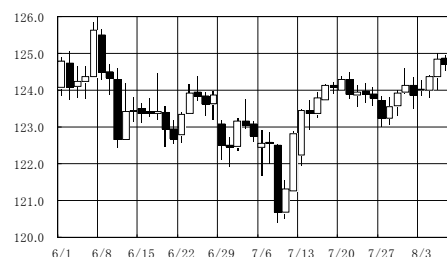
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は上昇する展開。週初 3 日に 124 円台前半でオープンしたドル/円相場は、前週末にブラード・セントレイス連銀総裁が利上げの可能性を示唆する発言をしたことを受け堅調に推移するも、米 7 月 ISM 製造業景気指数が市場予想を下回ったことで、123 円台後半まで下落する場面も見られた。4 日には日銀関係筋から追加緩和の必要性を否定するコメントを受けて、ドル/円は一時週安値となる 123.80 円まで下落。その後、ロックハート・アトランタ連銀総裁が、9 月利上げの可能性を示唆したことで、ドル/円は 124 円台前半まで上昇した。翌 5 日、米 7 月 ADP 雇用統計の弱い結果に、ドル/円は一時弱含むも、その後発表された米 7 月 ISM 非製造業景気指数の良好な結果となったことから、一時週高値となる 125.01 円まで上昇。6 日は、米新規失業保険申請件数の市場予想通りの結果にややドル買いが強まるも、米株価の下落を背景にドル売り優勢となり、ドル/円は 124 円台後半で上値重く推移した。本日にかけては、今晚の米 7 月雇用統計を控え様子見ムードが強く、ドル/円は 124 円後半で小動きとなっている。
- ・今週のユーロ/ドル相場は揉み合い推移。週初 3 日に 1.09 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週高値となる 1.0996 まで上昇するも、ドル買い優勢地合いに 1.09 台前半まで下落。その後、米金利低下を受けドル売りが強まると、ユーロ/ドルは、1.09 台半ばまで回復した。4 日にかけて、ユーロ/ドルは 1.09 台後半で底堅い推移が継続するも、ロックハート・アトランタ連銀総裁の発言を受けてドル買いが強まったことで、5 日に一時週安値となる 1.0847 まで下落した。その後、米 7 月 ADP 雇用統計や 7 月 ISM 非製造業景気指数の強弱入り混じる結果を受け、揉み合い推移となったが、その後ドル売り優勢地合いとなると、ユーロ/ドルは 1.09 台前半まで上昇した。6 日は、独 6 月製造業受注の良好な結果を好感すると、ユーロ/ドルは 1.09 台半ば近辺まで値を上げるも、米新規失業保険申請件数の結果を受けたドル買いに 1.08 台後半まで下落。その後は再びドル売り優勢地合いになったことで、ユーロ/ドルは 1.09 台前半まで値を戻した。本日にかけてもユーロ/ドルは同水準で、底堅い推移が継続している。

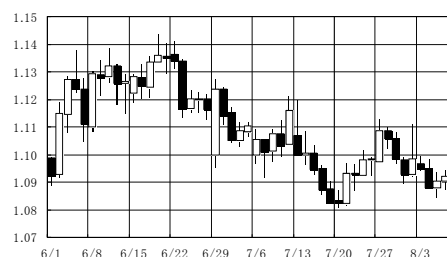
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		7/31(Fri)	8/3(Mon)	8/4(Tue)	8/5(Wed)	8/6(Thu)
ドル/円	東京9:00	124.09	124.05	123.95	124.30	124.78
	High	124.37	124.27	124.40	125.01	124.96
	Low	123.52	123.85	123.80	124.02	124.55
	NY 17:00	123.89	124.03	124.38	124.87	124.73
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0940	1.0968	1.0951	1.0884	1.0903
	High	1.1114	1.0996	1.0988	1.0940	1.0946
	Low	1.0921	1.0942	1.0879	1.0847	1.0874
	NY 17:00	1.0985	1.0951	1.0881	1.0905	1.0922
ユーロ/円	東京9:00	135.75	136.08	135.75	135.30	136.05
	High	137.35	136.42	136.16	136.20	136.53
	Low	135.62	135.62	135.28	135.00	135.84
	NY 17:00	136.16	135.77	135.30	136.15	136.30
日経平均株価		20,585.24	20,548.11	20,520.36	20,614.06	20,664.44
TOPIX		1,659.52	1,659.60	1,659.83	1,665.85	1,673.58
NYダウ工業株30種平均		17,689.86	17,598.20	17,550.69	17,540.47	17,419.75
NASDAQ		5,128.28	5,115.38	5,105.55	5,139.95	5,056.44
日本10年債		0.42%	0.42%	0.39%	0.40%	0.43%
米国10年債		2.18%	2.15%	2.22%	2.27%	2.22%
原油価格(WTI)		47.12	45.17	45.74	45.15	44.66
金(NY)		1,095.10	1,089.40	1,090.70	1,085.60	1,090.10

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・ 米国では、13 日(木)に 7 月小売売上高が発表される。6 月は前月比 ▲0.3% (市場予想同+0.3%) と予想外のマイナスとなったが、7 月は同+0.4% への反発が市場で予想されている。前回下振れ要因となった自動車関連売上は、7 月の新車販売数が年率 1,746 万台と 6 月同 1,711 万台から持ち直したこと等を背景に、市場予想通り前月から改善すると予想する。尚、小売売上高から月次変化幅の大きい自動車・ガソリン・建材の項目を除いて算出されるコア小売売上高についても、雇用・所得の緩やかな改善を受けて同様に小幅上昇を見込んでいる。ロックハート・アトランタ連銀総裁が 9 月利上げの可能性について言及する等、9 月 FOMC に向けて市場参加者が米経済指標の結果に敏感になる中、同指標が前月に続きマイナスに陥った場合は、9 月利上げ期待低下とともに市場が大きく反応する可能性が高い。このほか、14 日(金)に 7 月生産者物価指数、7 月鉱工業生産、そして 8 月ミシガン大学消費者信頼感指数が発表される。ミシガン大学消費者信頼感指数は、昨年末から頭打ちの状態が続いており、今回も前回比微増に留まると市場では予想されている。(予想 94.0 前回 93.1)
- ・ 本邦では、10 日(月)に 6 月経常収支、7 月景気ウォッチャー調査、13 日(木)に 6 月機械受注統計の発表が予定されている。このうち経常収支は、企業が海外子会社から受け取る配当金収入などにあたる第 1 次所得収支が堅調に拡大していることを背景に、5 月迄で 11 か月連続の黒字となっている。6 月は第 1 次所得収支が例年縮小する傾向があり、経常黒字も前月の 1 兆 8,809 億円から減少する可能性が高い。但し、既に発表されている貿易収支では、6 月貿易赤字が ▲690 億円と 5 月 ▲2,172 億円から縮小していることから、引き続き経常収支は黒字を維持すると考える。
- ・ 欧州では、11 日(火)に独 8 月 ZEW 景況感指数が発表される。指数内訳の中でも、特に期待指数に注目が集まる。前月までは、ギリシャ情勢の悪化を受けて期待指数は 4 か月連続で下落、2014 年 7 月以来の低さになっていた。ギリシャ債務問題への懸念が一旦後退したことを受けて、持ち直すかどうか注視していきたい。このほか、12 日(水)に英 6 月 ILO 失業率、ユーロ圏 6 月鉱工業生産、14 日(金)に独仏伊及びユーロ圏 4 ～6 月期 GDP の発表が予定されている。

	本 邦	海 外
8 月 7 日(金)	-----	・米 7 月雇用統計 ・米 6 月消費者信用残高 ・独 6 月鉱工業生産 ・独 6 月貿易収支
10 日(月)	・6 月国際収支 ・7 月貸出・預金動向 ・7 月景気ウォッチャー調査 ・7 月企業倒産件数 ・8 月金融経済月報	-----
11 日(火)	・7 月マネースtock	・米 4～6 月期労働生産性(速報) ・米 6 月卸売上高 ・独 8 月 ZEW 景況指数
12 日(水)	・日銀金融政策決定会合議事要旨 ・7 月企業物価 ・6 月鉱工業生産(確報) ・6 月第三次産業活動指数	・米 7 月財政収支 ・ユーロ圏 6 月鉱工業生産
13 日(木)	・6 月機械受注	・米 7 月小売売上高 ・米 6 月企業在庫
14 日(金)	-----	・米 7 月生産者物価 ・米 7 月鉱工業生産 ・米 8 月ミシガン大学消費者マインド ・ユーロ圏 4～6 月期 GDP(速報値) ・ユーロ圏 7 月消費者物価(確報) ・独 4～6 月期 GDP(速報値)

【当面の主要行事日程(2015 年 8 月～)】

国際経済シンポジウム(8 月 27～29 日、ジャクソンホール)
 欧州中銀理事会(9 月 3 日、10 月 22 日、12 月 3 日)
 G20 財務相・中央銀行総裁会議(9 月 4～5 日、アンカラ)
 日銀金融政策決定会合(9 月 14～15 日、10 月 6～7 日、10 月 30 日)
 米 FOMC(9 月 16～17 日、10 月 27～28 日、12 月 15～16 日)
 スペイン・カタルーニャ州議会選挙(9 月 27 日)

以 上

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2015年8月)

月	火	水	木	金	週末
3 日本 自動車販売台数(7月) 米国 個人所得・消費(6月) 米国 建設支出(6月) 米国 ISM製造業景気指数(7月)	4 日本 マネタリーベース(7月) 米国 製造業新規受注(6月)	5 米国 貿易収支(6月) 米国 ISM非製造業景気指数(7月)	6 日本 日銀金融政策決定会合(～7日) 日本 景気動向指数(速報、6月) ドイツ 製造業受注(6月)	7 米国 雇用統計(7月) 米国 消費者信用残高(6月) ドイツ 鉱工業生産(6月) ドイツ 貿易収支(6月)	
10 日本 国際収支(6月) 日本 貸出・預金動向(7月) 日本 景気ウォッチャー調査(7月) 日本 企業倒産件数(7月) 日本 金融経済月報(8月)	11 日本 マネースtock(7月) 米国 労働生産性(速報、4～6月期) 米国 卸売売上高(6月) ドイツ ZEW景況指数(8月)	12 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨(7月14～15日開催分) 日本 企業物価(7月) 日本 鉱工業生産(確報、6月) 日本 第三次産業活動指数(6月) 米国 財政収支(7月) ユーロ圏 鉱工業生産(6月)	13 日本 機械受注(6月) 米国 小売売上高(7月) 米国 企業在庫(6月)	14 米国 生産者物価(7月) 米国 鉱工業生産(7月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(8月) ユーロ圏 GDP(速報値、4～6月期) ユーロ圏 消費者物価(確報、7月) ドイツ GDP(速報値、4～6月期)	
17 日本 GDP(1次速報、4～6月期) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(8月) ユーロ圏 貿易収支(6月)	18 米国 TICレポート(対内対外証券投資、6月) 米国 住宅着工(7月)	19 日本 貿易収支(7月) 日本 景気先行指数(確報、6月) 日本 消費者物価(7月) 米国 FOMC議事要旨(7月28～29日開催分) ユーロ圏 国際収支(6月)	20 米国 中古住宅販売(7月) 米国 景気先行指数(7月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(8月)	21	
24	25 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(6月) 米国 新築住宅販売(7月) 米国 消費者信頼感指数(8月) 米国 GDP(確報、4～6月期) ドイツ IFO景況感指数(8月) ドイツ	26 日本 企業向けサービス価格(7月) 米国 耐久財受注(7月)	27 米国 GDP(2次速報値、4～6月期) 米国 国際経済シンポジウム(～29日、ジャクソンホール)	28 日本 労働力調査(7月) 日本 家計調査(7月) 日本 全国消費者物価(7月) 日本 東京都区部消費者物価(8月) 日本 商業販売統計(7月) 米国 個人所得・消費(7月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、8月)	
31 日本 鉱工業生産(速報、7月) 日本 住宅着工(7月) 米国 シカゴPMI(8月) ユーロ圏 消費者物価(速報、8月) ユーロ圏 失業率(6月)					

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2015年9月)

月	火	水	木	金	週末
	1 日本 法人企業統計(4～6月期) 日本 自動車販売台数(8月) 米国 建設支出(7月) 米国 ISM製造業景気指数(8月) ユーロ圏 失業率(7月)	2 日本 マネタリーベース(8月) 米国 労働生産性(確報、4～6月期) 米国 製造業新規受注(7月) 米国 ページブック	3 ユーロ圏 ECB理事会 米国 貿易収支(7月) 米国 ISM非製造業景気指数(8月)	4 米国 雇用統計(8月) ユーロ圏 GDP(4～6月期、改定値) ドイツ 製造業受注(7月) アンカラ G20財務相・中央銀行総裁会議(～5日) (トルコ)	
7 日本 景気先行指数(速報、7月) ドイツ 鉱工業生産(7月)	8 日本 国際収支(7月) 日本 GDP(4～6月期、確報) 日本 貸出・預金動向(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(8月) 日本 *企業倒産件数(8月) 米国 消費者信用残高(7月) ドイツ 貿易収支(7月)	9 日本 マネースtock(8月)	10 日本 国内企業物価(8月) 日本 機械受注(7月) 米国 卸売売上高(7月)	11 日本 景気予測調査(7～9月期) 米国 生産者物価(8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、9月) 米国 財政収支(8月)	
14 日本 日銀金融政策決定会合(～15日) 日本 第三次産業活動指数(7月) ユーロ圏 鉱工業生産(7月)	15 米国 小売売上高(8月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(9月) 米国 鉱工業生産(8月) 米国 企業在庫(7月) ユーロ圏 貿易収支(7月) ドイツ ZEW景況指数(9月)	16 日本 金融経済月報(9月) 米国 FOMC(～17日) 米国 消費者物価(8月) ユーロ圏 消費者物価(確報、8月)	17 日本 貿易収支(8月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、7月) 米国 経常収支(4～6月期) 米国 住宅着工(8月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(9月)	18 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨 (8月6～7日開催分) 米国 景気先行指数(8月) ユーロ圏 国際収支(7月)	
21 日本 敬老の日 米国 中古住宅販売(8月)	22 日本 国民の休日	23 日本 秋分の日	24 米国 耐久財受注(8月) 米国 新築住宅販売(8月) ドイツ IFO企業景況感指数(9月)	25 日本 全国消費者物価(8月) 日本 東京都都区消費者物価(9月) 日本 企業向けサービス価格(8月) 米国 GDP(3次速報、4～6月期) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、9月)	27 スペイン 州議会選挙
28 米国 個人所得・消費(8月)	29 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(7月) 米国 消費者信頼感指数(9月)	30 日本 商業販売統計(8月) 日本 鉱工業生産(8月) 日本 住宅着工(8月) 日本 シカゴPMI(9月) 米国 失業率(8月) ユーロ圏 消費者物価(速報、9月)			

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhoobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2015年7月31日	週末版
2015年7月30日	FOMCを終えて～吹けば飛ぶような利上げ期待～
2015年7月29日	内閣支持率低下とドル/円相場
2015年7月28日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年6月分)
2015年7月27日	第三次金融支援でギリシャは幸せになれるのか
2015年7月24日	週末版(NZドルの現状や展望について～購買力平価(PPP)や実質実効為替相場(REER)からの評価～)
2015年7月23日	ユーロキャリー取引の妥当性を考える
2015年7月17日	週末版(ECB理事会を終えて～見直されるLLR機能～)
2015年7月16日	日銀金融政策決定会合を受けて
2015年7月15日	GPIF運用状況(15年3月末)から試算する円売り余力
2015年7月14日	ギリシャ第三次金融支援合意について
2015年7月13日	ユーロ圏、72時間以内の緊縮可決を要求
2015年7月10日	週末版(本当に本当の最後の会合～不安な「ギリシャ後の展開」～)
2015年7月9日	不運が続く円安シナリオ
2015年7月6日	ギリシャ国民投票を受けて～勝負の2週間～
2015年7月3日	週末版(拡大資産購入プログラム(APP)の現状と展望について～ギリシャ情勢を受けて問われる運営方針～)
2015年7月2日	外貨準備構成通貨の内訳(15年3月末時点)
2015年7月1日	ギリシャ返済遅延と離脱に係る損失試算について
2015年6月29日	一連のギリシャ動向について～デフォルトはメインシナリオへ～
2015年6月26日	週末版(2015年上半期を終えて～素直な政策金利相場だった上半期～)
2015年6月25日	約18年半ぶりの株高を受けて～実感はあるか?～
2015年6月24日	ユーロ圏、ギリシャ以外の年内の火種は?
2015年6月23日	何故ユーロ相場は底堅いか?
2015年6月22日	ギリシャ向けエクスポージャーの現状把握
2015年6月19日	週末版(ユーロ圏財務相会合を終えて～舞台は首脳級へ引き継ぎ～)
2015年6月18日	FOMC及びSEPを受けて(6月16～17日開催分)
2015年6月16日	米4月対内・対外証券投資(TIC)レポートについて
2015年6月15日	当面のギリシャ情勢～考え得るシナリオや離脱後の相場～
2015年6月12日	週末版(黒田総裁発言の解釈～実質実効為替相場を考える～)
2015年6月10日	ユーロ圏1～3月期GDP(2次推計値)について
2015年6月9日	基礎的需給環境の確認～4月国際収支統計を受けて～
2015年6月8日	本当にFRBの早期利上げは可能になったのか?
2015年6月5日	週末版(ユーロ相場の急騰について～「壮大な投機」の後退:その②～)
2015年6月4日	ECB理事会を終えて～ボラティリティ許容発言の意図～
2015年6月3日	2年ぶりの実質賃金上昇～忍び寄る交易損失～
2015年6月2日	ECB理事会プレビュー～「完全なる実施」の強調～
2015年6月1日	G7を終えて～ドル高、交差する三極の思惑～
2015年5月29日	週末版
2015年5月28日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年4月分)
2015年5月27日	「7年10か月ぶりの円安・ドル高」を受けて
2015年5月26日	ドル/円上昇をもたらした2つの要因～従前の想定は変わらず～
2015年5月25日	ECB理事会議事要旨(4月15～16日開催分)について
2015年5月22日	週末版(ユーロ圏に戻るリアルマネー～証券投資動向から占うユーロ相場～)
2015年5月21日	クレー発言の真意とQEの実施状況について
2015年5月20日	本邦1～3月期GDPについて～消費&在庫が下支え～
2015年5月19日	足許のギリシャ情勢について～6月返済も危ういか～
2015年5月18日	ユーロ相場の急騰について～「壮大な投機」の後退～
2015年5月15日	当面のギリシャ情勢の整理～何度目かの佳境～
2015年5月14日	ユーロ圏1～3月期GDP(一次推計値)について
2015年5月13日	本邦3月国際収支統計と円相場見通しについて
2015年5月12日	本邦の雇用・賃金情勢について～完全雇用到達後の世界～
2015年5月11日	英国総選挙と今後についての論点整理
2015年5月8日	QQEの効果検証～「金利への回帰」の布石か～
2015年5月7日	欧州委員会春季経済予測について
2015年5月1日	週末版(日銀政策決定会合を終えて～勝負の秋～)
2015年4月30日	米1～3月期GDP及びFOMCについて
2015年4月28日	投機筋の円ショート縮小をどう読むか?
2015年4月27日	最近のギリシャ情勢に関する整理
2015年4月24日	週末版(日銀政策決定会合プレビューその②～参院財政金融委員会での総裁発言を受けて～)
2015年4月23日	日銀政策決定会合プレビュー
2015年4月22日	本邦3月貿易統計～黒字転化をどう評価するか～
2015年4月20日	重要な論点は「いつやるか」から「何回できるか」
2015年4月17日	週末版(ECB、PSPPの残高状況に関して～「12%」から何を読み取るか?～)
2015年4月16日	ECB理事会を終えて～与信改善を強調～
2015年4月15日	通貨政策の変節と日銀～浜田参与発言を受けて～
2015年4月14日	ECB理事会プレビュー～早くも聞こえ始めたtapering～
2015年4月13日	米為替政策報告書について～ドル高容認の継続?～
2015年4月10日	週末版
2015年4月7日	量的・質的金融緩和(QQE)導入から2年を受けて
2015年4月6日	米3月雇用統計～6月利上げの芽は潰れたか～
2015年4月3日	週末版(ECB理事会議事要旨(3月5日開催分)～“prudent optimism(節度ある楽観)”の先行きは～)
2015年4月2日	日銀短観3月調査～「需要不足」から「供給不足」へ～
2015年4月1日	外貨準備構成通貨の内訳(14年12月末時点)
2015年3月30日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年2月分)
2015年3月27日	週末版
2015年3月26日	本邦対内・対外証券投資の動向について
2015年3月25日	本邦家計部門の金融資産の現状について
2015年3月24日	円相場の基礎的需給環境の整理
2015年3月23日	ユーロ圏1月国際収支統計～対内証券投資が回復～
2015年3月20日	週末版(第3回ターゲット型長期流動性供給(TLTRO)を終えて～ユーロ圏の与信機能に復活の兆し?～)
2015年3月19日	FOMCを終えて(3月17～18日開催分)
2015年3月18日	ECB、量的緩和と政策(QE)に係るQ&A
2015年3月17日	ECBの国債・政府機関債購入額(第1週目)を受けて
2015年3月16日	ユーロ相場の水準感～佳境を迎えるユーロ売り～
2015年3月13日	週末版(米国はどこまでユーロ安を許容するのか～試される「強いドルは国益」～)
2015年3月12日	日銀の追加緩和はあるのか～払拭しきれない可能性～
2015年3月11日	3月レバトリ円高説について
2015年3月10日	なぜ為替と株価の相関が低下しているのか?
2015年3月9日	ECB理事会を終えて～後ろめたさを見せたドラギ総裁～
2015年3月6日	週末版
2015年2月27日	週末版
2015年2月26日	為替証拠金取引で外貨買いポジションが急増